

単 位 数	教 科 担 当 者	使用教科書・補助教材・その他
2	三浦 伊都子 勝田 不学 高橋 幸一	高等学校 現代の国語 (第一学習社)
○必 履 修 学校必履修 必修選択 自由選択		

◆学習の目標

- ・言語活動を通して、論理的に考える力や他者との関わりの中で伝え合う力を育てる。
- ・言葉を通して積極的に他者や社会に関わろうとする態度を養う。
- ・実社会に必要な国語の知識や技能を身につけ、自分の思いや考えを広げ深めさせる。

◆主な学習内容・方法

- ・主題に至る論の構造を把握し、主張に説得力を持たせるための論の展開を理解する。
- ・文章に含まれる情報を相互に関連づけながら、内容を的確に捉え、要旨を把握し解釈する。
- ・目的に応じて文章や図表の情報を関連付け、本文の構成や論理の展開について理解を深める。

◆到達目標と観点別評価の評価規準

- 〔標準〕
- ・認識や思考を支える言葉の働きを理解し身につけている。
 - ・文章の内容や構成、論理の展開を捉え、要旨や要点を的確に把握できる。
 - ・実社会に必要な語句や語彙の用法を理解し、適切に用いることができる。
 - ・多様な観点から情報を収集整理し、伝え合う内容を検討することができる。
 - ・自分の考えが正確に伝わるよう表現の仕方を工夫することができる。

- 〔応用〕
- ・多様な種類の文章や資料から解釈を導き、適切に表現できる。

〔観点別評価の評価規準〕

○知識・技能

言葉の特徴や使い方を身につけ、文章に含まれる情報の扱い方を学び、実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めている。

○思考・判断・表現

「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域について、論理的に考えて要旨を把握し、多様な情報を収集整理し、論点を共有しながら自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。

○主体的に学習に取り組む態度

多様な情報を整理し、他者や社会と関わり意見を交換しながら、理解したことや解釈したことをまとめ、自分の考えをまとめようとしている。

◆年間予定授業時間

予定時数	70 時間	1 学期 (26 時間)	2 学期 (28 時間)	3 学期 (16 時間)
------	-------	--------------	--------------	--------------

◆学習のしかた（予習・復習・宿題・課題・その他）

- ・本文を事前に通読し、分からない漢字や語句、筆者について予め調べておく。
- ・段落相互の関係や全体の構成に気を付けながら、本文の展開と主張を整理しておく。
- ・副読本を自学自習で読み進め、多様な文章に慣れ、発問に対する解答の仕方を練習する。
- ・授業で課される宿題や課題に対して主体的に取り組む。

◆授業計画

学期	月	単元・教材等	単元 ごとの 時間数	学習の内容	学習到達目標
1 学期	4	「『生きもの』として生きる」 (中村桂子)	4	・筆者の提案する人間の生き方について、文章構成をもとに把握し考えを深める。	・文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解している。
	5	「『本当の自分』幻想」 (平野啓一郎)	4	・個別の情報をどのように一般化しているかを捉え、学習課題に沿って説明する。	・個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。
	6	「羅生門」 (芥川龍之介)	8	・主題に至る論の構造を把握し、主張に説得力を持たせるための論の展開について考える。	・積極的に本文中に根拠を求め、筆者の主張に対する自分の考えを、表現の仕方を工夫して書く。
	7	「自己と他者1」 (山崎正和)	5	・自己と他者について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する。	・登場人物の行動や心理をもとに場面の展開を適切に把握し、内容の解釈をふまえて自分で評価し表現の仕方を工夫して発表する。
	7	「水の東西」 (山崎正和)	5	・積極的に本文中に論拠を求め、筆者の主張に対する自分の考えを、表現の仕方を工夫して書く。	・文章に含まれる情報を相互に関連づけながら、筆者の意図を解釈し考えを深める。
2 学期	8	「ものごととば」 (鈴木孝夫)	5	・内容の解釈をふまえて粘り強く本文の描写をたどり、登場人物が主張する論理についての的確に読み取りまとめる。	・対比関係を整理しながら、東西の文化の比較について論点を整理し論理の展開を理解する。
	9	「間の感覚」 (高階秀爾)	5	・具体と抽象の関係を理解して論理構成を把握し、言語の性質についての筆者の主張を理解する。	・言語について述べた文章を読み、他の文章やテキストを併せて読み合わせ、理解を深められる。
	10	「夢十夜」 (夏目漱石)	6	・筆者の主張に従って具体例を適切に定義し、表現の仕方を工夫して自らの言葉で説明する。	・言葉には思考を支える働きがあることを理解し筆者の主張に従って具体例を自らの言葉で工夫して伝えることができる。
	11	「無彩の色」 (港千尋)	6	・言葉が認識や思考を支えるという筆者の主張について、他の資料やテキストと併せて読み合わせ、理解を深める。	・情報と情報を対比させながら展開する評論に粘り強く取り組み、主張と論拠、個別と一般化などの既習事項をふまえて要旨をまとめる。
	12	「『文化』としての科学」(池内了)	6	・情報と情報を対比させながら展開する評論に粘り強く取り組み、主張と論拠、個別と一般化などの既習事項をふまえて要旨をまとめる。	・非日常性をもった世界において「自分」は何を判断の根拠としているかを適切に解釈し、解釈した内容について自らの言葉で紹介文として表現する。
	12	「情報の対比」	6	・例示された個別の情報具体的に検証し、筆者の考えとの関係を説明する。	・比喩や言い換えなどの修辞や表現の工夫を理解し、登場人物の判断の根拠を適切に解釈できる。
3 学期	1	「現代の『世論操作』」(林香里)	5	・本文で例示された「茶の湯」や「千利休」など日本文化について、自ら他の資料などを適切に用いて考えを深める。	・個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。
	2	「フェアな競争」 (内田樹)	5	・筆者が主張する科学と技術の違いを対比的に整理し、現状における科学と技術の関係を理解する。	・日本文化について調べて整理し、自分の考えを深めている。
	3	「不均等な時間」 (内山節)	6	・情報操作の具体例を通して筆者が提起する現代の課題を理解し、メディア社会に生きる自分たちに対する問題意識をもつ。	・対比を整理し、筆者の主張を整理できる。